

簡素化された墓地に対する親子間での評価の相違 Differences Attitudes toward Simplified Graves between Parents and Children

○渡邊陽* 林直樹** 山田菜緒子**
Minami WATANABE Naoki HAYASHI Naoko YAMADA

1. 研究の背景と目的

近年、少子高齢化・核家族化が進行する中で「墓の継承問題」が顕在化している。墓地については、これまで通りの形で維持していくのが望ましいと思われるが、直接の関係者だけでなく、地域の景観や地域住民の心理面からも、「これまでの形に固執し、墓地が放棄され、荒廃する」という状況は避けるべきと考える。

本稿では、墓の荒廃を防ぐという観点から、「墓地の簡素化」を次善策の1つとして提示したい。また、墓について考えるとき、それが「親の墓」なのか、「自分の墓」なのかで意識が異なること(米澤, 2018)を踏まえて、「親子間の意識の相違」を明らかにすることに注力する。

2. 調査方法

本調査では、学生用(以降「子アンケート」と、両親用(同「親アンケート」)の、内容がほぼ共通する2つのアンケートを準備した。調査対象は、金沢大学の学生およびその両親である(子1人につき両親分のアンケートを配布)。5つの簡素化墓地の具体的な形(表1)を提示し、「自分の弔い方(子アンケートのみ)」と「親の弔い方(子アンケートの場合は自分の親、親アンケートの場合は自分自身について)」について、その評価をたずねた(注1)。主な選択肢は「そうしたいと思う(支持)」「そうしたいとは思わないが、容認できる(容認)」「そうしたいとは思わないし、容認もできない(拒否)」である。

表1 簡素化墓地の具体的な形とその省略形

Table 1 Concrete forms of simplified graves and those abbreviations

	簡素化墓地の具体的な形	省略形
1	遺骨を自然にかえす(散骨)	散骨
2	遺骨を「身内(家族)以外の人と共同で入る墓」に入れる	共同
3	遺骨は残すが、墓石は使用しない(そのかわり、納骨堂、手元供養などを使用する)	脱墓石
4	一定の時期がきたら、管理の負担を軽減するため、遺骨を納める場所や納め方を簡素化する(簡素化の例: 合葬墓への移転、散骨)	有期限
5	一人の遺骨を分け、複数の形で弔う(例: 一部を散骨、一部を墓に埋葬する)	分骨

*金沢大学大学院人間社会環境研究科 Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Kanazawa University

**金沢大学人間社会研究域人間科学系 Faculty of Human Science, Kanazawa University

キーワード: 墓地, 弔い, 簡素化

3. 結果と考察

図 1 について少し補足する。ここでは親の個々のケースに、対応する子のデータを連結させ、実現可能（率）を算出している（割合の分母は親の人数）。子 1 人が親 2 人とリンクしている場合は、同じ子のデータが 2 回使用されることになる。

主な結果は次の 2 点に集約できる。(1) 図 1 から、親は自分自身については簡素化に肯定的であるが、「親に対する子の意向」を加味すると、大幅に低下することがわかった。親の弔い方の簡素化に対する「子の意向」がやや否定的ということは、図 2 から確認できた。(2) 一方、図 2 から、回答者自身への弔い方という点では親子間の差は小さく、両者とも、簡素化に肯定的という傾向がみられた。(1) および (2) の結果より、子は自分自身の弔い方と親のそれとを別の枠組みで認識していることが示唆された。

形態ごとに評価は異なるものの、墓地簡素化の実現性は低くないといえる。特に「有期限」「散骨」「脱墓石」は 4 割を超えていることから、簡素化の現実的な選択肢として拡充すべきであろう。今後、次の段階として、墓地簡素化が地域の景観や持続性に与える影響について探究したい。

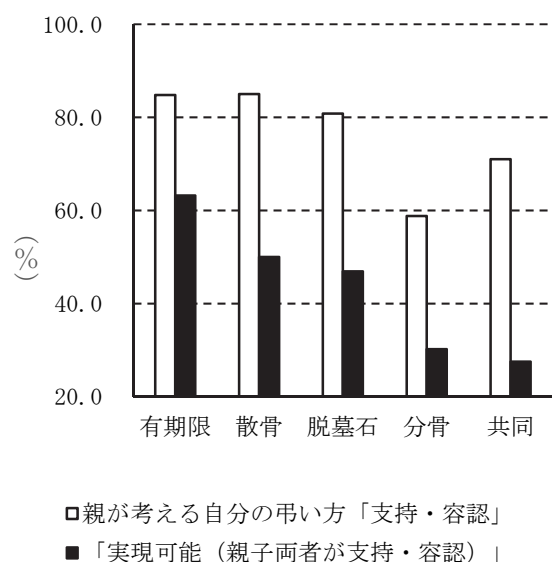


図 1 墓地簡素化の実現性(親子両者が可)
Fig. 1 Feasibility of simplifying graves

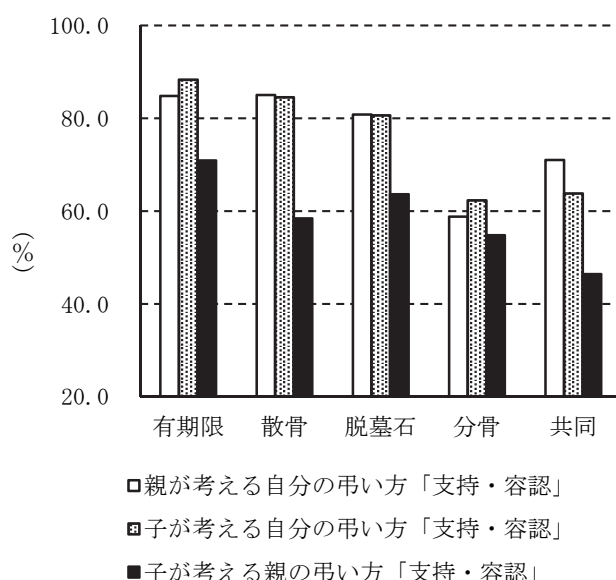


図 2 簡素化墓地に対する評価
Fig. 2 Attitudes toward simplified graves

謝辞：アンケートにご回答いただいた皆様に深く感謝いたします。また、アンケート作成段階で関係者の皆様から重要な示唆をいただいたことにも感謝の意を表したい。本研究は JSPS 科研費 17K07998 の助成を受けたものである。

(注 1)：子アンケート回収数は 258 枚、親アンケート回収数は 144 枚である。親子の対応関係を判別できるよう、番号をふって配布・回収した。

参考文献

米澤結 (2018)：『お墓、どうしますか？変容する家族のあり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン